

## 通 教 月 報

## 診 療 情 報 管 理 研 究

令和元年 9 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人 一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>  
受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月 1 日  
定 価 1 部 150 円 1 カ年 1,600 円(税込・送料込)  
郵便振替 00190-5-396045  
名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 思 っ 事

川 平 幸 三 郎

医 療 法 人 日 新 会 久 留 米 記 念 病 院 院 長

病名は ICD-10 分類に準拠し入力、必要な情報は取り出され活用されている。

2016 年 1 月からがん登録法が始まり、悪性腫瘍と診断した医療機関に登録の義務が生じ、データは都道府県を経て国立がん研究センターで管理されている。従来の方法はがん統計には不十分だったのだ。ではがん以外の疾患には十分なのだろうか。

大腸内視鏡検査で見えられたポリープの拡大内視鏡画像を AI(人工知能)で解析しがんを発見できたと聞く。予め 6 万枚の画像を学習した結果、ポリープを摘出すべきか否かの判断は熟練した専門医に匹敵するとも。

学習する画像は多い方が良い。既に診療情報としてファイルされた画像が AI の学習に使えるなら良い。現行の各種画像診断は、やがて AI 診断になるとも聞く。画像がディープラーニングに使える品質で既に管理されているなら、ピックアップするだけで、AI の学習となり、診断精度が向上するから、診療情報管理士の仕事は更に素晴らしいものになる。もしファイリングされた画像が AI 学習に使えない代物なら、システムを使えるものにして欲しい。変更するなら早い方が良い。

詳しく診断する事で適切な治療が選ばれ、しかも治療結果に差が出れば、診断名は細分化される。喫煙関連の interstitial lung disease (間質性肺疾患) で、CPFE (気腫合併肺線症)、PPFE (特発性胸膜肺実質線維弾性症) が使われている。ウイルス性肝炎の撲滅後も、肝臓がんが減少しないため、非アルコール性の脂肪肝、NAFLD、NASH から肝硬変を経て、肝臓がんに進展するものがあり注目されている。これらの言葉は試験の対象外の用語である。診断が非侵襲的で正確に行えるなら、その診断手技は治療法に応用される。「腹腔鏡下」や「胸腔鏡下」が付いたものの外、「経カテーテル的」ステント挿入や、塞栓術、ablation がある。覚える用語は増えるばかり。

通教生は今、資格試験に向けて勉強中だと思う。講師陣も研修で、試験に役立つ講義はどうあるべきか学習している。新規に始まった Web で学べる、e-ラーニングも活用し試験突破を目指して欲しい。資格取得後は学会に参加し自己研鑽しよう。

